DPRI Award 設立の趣旨および

第 12回 DPRI Award 受賞者決定の経緯

研究教育担当副所長　境　有紀

防災研究所は、国内外で発生する自然災害を研究対象とすることから、国際交流協定の締結、国際共同研究、海外災害調査や留学生・海外共同研究者の受け入れなどの国際的な活動にも積極的に取り組んで参りました。平成22年度に認定され開始した共同利用・共同研究拠点は、令和 4 年度から3期目に入っています。また、防災研究所が事務局を務める世界防災研究所連合（GADRI）は令和5年3月に第6回世界防災研究所サミットを開催いたしました。このように防災研究所は頻発する国内外での自然災害に備えるための国際防災研究拠点として、その地位を確立するために、様々な新しい取り組みを推進しています。

これらの一環として平成23年3月に「京都大学防災研究所国際表彰規程」が制定され、DPRI Award が設立されました。その表彰の要件は

1）　防災研において、客員教員や共同研究者などとして滞在し、セミナーや共同研究などを実施し、防災研の研究教育に成果を上げた方
2）　防災研が主催する研究集会等において、基調講演、招待講演等を務め、又は企画運営に携わり、防災研の活動に貢献した方
3）　防災研が実施する国際共同研究及び現地調査等において貢献した方

となっております。

これまでの授与実績は以下の通りです。

- 第 1 回（平成 25 年度）：金森博雄博士（カリフォルニア工科大学名誉教授）
- 第 2 回（平成 26 年度）：フランシスコ・サンチェズセスマ博士（メキシコ国立自治大学教授）
- 第 3 回（平成 27 年度）： キース・ハイペル博士（ウォータールー大学教授）
- 第 4 回（平成 28 年度）： ミシェル・ジャボイエドフ博士（ローザンヌ大学教授）

および国際応用システム分析研究所（IIASA）リスク・レジリエンスプログラム

- 第５回（平成 30 年度）： ジョン・グレッグ・アンダーソン博士（ネバダ大学リノ校教授）
- 第６回（令和元年度）： アンドリュー・コリンズ博士（ノーサンブリア大学教授）
- 第 7 回（令和 2 年度）： 陳亮全（Liang-Chun CHEN）博士（台湾国立防災救助技術センター元センター長）
- 第８回（令和３年度）： ジェームズ・デニス・ゴルツ博士（コロラド大学ボルダー校客員研究員）
- 第 9 回（令和 4 年度）： ビクトール・マヌエル・クルス・アティエンツア博士（メキシコ国立自治大学教授）
- 第 10 回（令和 5 年度）： ピエー＝イーヴ・バード博士（グルノーブル・アルプ大学地球科学研究所上級研究員）
- 第 11 回（令和 6 年度）：イラセマ・アルカンタラ＝アヤラ博士（メキシコ国立自治大学地理学研究所教授）

今回、令和７年度の国際表彰について、令和８年1月に防災研究所の多々納教授から推薦があり、表彰選考委員会で慎重に審議しました。その結果、カリフォルニア大学バークレー校の名誉教授のチャールズ・スコーソーン博士に対し、第 12 回の防災研究所国際表彰 DPRI Award の「研究協力貢献賞」の受賞者として所長に推薦することを決定いたしました。その後、所長の承認を得、これを教授会に諮り承認されました。

チャールズ・スコーソーン博士は、クーパー・ユニオン大学を卒業後、リーハイ大学で理学修士号、京都大学で工学博士を取得されました。その後、サンフランシスコのデイムズ・アンド・ムーア法律事務所、EQE インターナショナル社を経て、2003 年～2008 年に京都大学教授を務められ、スタンフォード大学、北京師範大学、早稲田大学の客員教授を経て、現在はカリフォルニア大学バークレー校の名誉教授、客員研究員です。

博士は、自然災害および技術的災害リスクの分析・軽減における国際的権威であり、また、SPA リスク LLC の社長として、世界銀行やグローバル企業へ多大な専門的知見を提供してきました。特に京都大学防災研究所（DPRI）との連携は深く、長年

にわたり世界の地震防災研究をリードし続けています。

1980 年代半ばから、教授は将来の東海地震への備えとして米国地震工学研究所内に「予測東海地震委員会」を組織し、日米の研究者や実務家の相互理解を深める場を創出しました。このネットワークは、1989 年のロマ・プリエタ地震や 1995 年の阪神・淡路大震災における迅速な日米合同調査の実現に大きく寄与しました。2003 年からは京都大学教授として地震防災研究室を率い、多くの学生やポスドクを指導するとともに、DPRI 初となる世界銀行資金の国際プロジェクトを主導し、世界規模の災害リスクデータベースやソフトウェアを構築されました。

現場での調査活動も精力的で、2004 年のインド洋大津波や新潟県中越地震、2011 年の東日本大震災など、大規模災害のたびに DPRI の調査チームを率い、ライフラインの被害調査や学術誌への特集号掲載などを通じて貴重な知見を共有してきました。また、ケンブリッジ大学やコーネル大学との共同研究関係を築き、2008 年には DPRI と世界の保険業界を繋ぐ「第 1 回アジア大災害リスク国際会議」を開催するなど、学術界と実業界の橋渡しにも尽力されました。

最大の功績の一つは、世界中の災害研究機関を繋ぐ「世界防災研究所連合（GADRI）」の着想と創設です。多々納裕一教授らと緊密に協力し、現在 200 以上の機関が加盟する巨大な連合体へと発展させました。創設メンバーおよび諮問委員長として、GADRI 憲章の策定やブックシリーズの編集を主導し、現在も強力な支持者として貢献を続けています。

また、1970 年代の京都大学での博士研究に端を発する地震火災の研究は、現代の保険・緊急管理業界における大規模モデルの礎となっており、2023 年の関東大震災 100 周年に際しても最新の論文を執筆するなど、その情熱は衰えることがありません。

卓越した専門性と献身性、そして国際的なリーダーシップを兼ね備えたスコーソーン博士は、防災研究所の国際的な学際研究を牽引し、国際プレゼンスの向上に大いに貢献されてきました。スコーソーン博士には、これまでのご貢献に深く感謝するとともに、今後も受賞者に授与される終身称号の DPRI Fellow として、防災研究所の研究・教育に大所高所からご指導・ご助言いただければ大変ありがたく存じます。